

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2025 年 11 月 15 日				
事業所名		小田原ひかり				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		学習スペースと活動スペースを区切るなど状況に応じたスペース活用をしている	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		必要資格のある職員を適正に配置している	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	手すりの設置を行っている	賃貸物件であり建物の構造上バリアフリーにすることは難しい。対象児童の必要性に応じて対応していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		スケジュールの掲示による視覚支援、日々の清掃を行っている	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		1階の多目的ホールやパーティション活用によって活動スペースを区切り、特性に応じた支援ができるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		日々振り返る時間をもつようにしている	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表から内容を確認し意向・意見等を把握している。必要に応じて相談支援を実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ケース会議・事業所会議等で意見をもとめている。日々の業務内で話す機会をつくっている。ミーティング・会議では職員からの意見を広く聴く機会を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在、第三者による外部評価は行っていない。実施することになった場合、保護者にもお知らせを行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		強度行動障害研修を順次受講している。強行研修・実践研修・他事業所での研修に参加する機会を希望に沿って機会を設けている	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページにて公表している。毎日の支援・週間・週末プログラムが書面化され打ち合わせ時各スタッフに周知できるようになっている	ホームページにて公表されていることを広く周知していく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		月に1回職員間でケース会議を開催し、子どもや保護者のニーズや課題を話し合い分析した上で児発管が個別支援計画書を作成している	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議には原則すべての職員が参加している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画書作成の段階からすべての職員が関わっている	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		専門的支援計画記録・強度行動障害支援記録・個別記録を実施アセスメントはもえぎ所定記録にて使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域に照らし合わせ支援内容を記載している。家族支援・地域支援については小田原市・相談支援員・保育所等訪問事業等との連携情報を具体記載している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各職員の得意分野を生かした活動プログラムをチームで立案している	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		個別支援計画書に基づき、様々な活動プログラムを企画立案、実施している。	好評のプログラム、効果の大きいプログラムに関しては繰り返し展開している

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援に沿った個別課題後小集団活動が毎回実施されている。活動によって本人の参加の意思を尊重したり必要に応じて参加を促す	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝、支援時間前の打ち合わせ時に具体的実施内容や役割分担について話し合われている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		職員間で振り返りを行い情報共有を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々、個別支援計画に基づく個別ケアの記録・専門的支援実施記録をとっている	専門的支援実施記録と合せて、支援の検証・改善につなげていく
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		3ヶ月・6ヶ月モニタリングを実施している。6ヶ月ごとアセスメントを取り直し個別支援計画書の見直しを行っている。その他必	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「日常生活の充実と自立支援のための活動」「多様な遊びや体験活動」「地域交流の活動」「子どもが主体的に参画できる活動」を	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		日常の場面でできるだけ選択肢を増やし、選択して希望が叶う機会を増やしている。中高生には本人とともに将来像をイメージしそれ	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		管理者、児発管をはじめ、よく理解する職員が参加している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		障害福祉サービス、発達支援との連携は常時実施している。必要なときに必要な機関が得られるよう積極的に働きかけている。	医療機関との連携は保護者を通して行っている
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		児童引き渡し時に毎回情報共有を行っている。関係機関連携会議・日頃の引取時の情報共有をおこなっている。	必要に応じて関係機関連携会議を実施し情報共有を行う。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	契約前の面談時に任意で発達支援利用時の計画書等を閲覧させていただいている。保護者や相談員を通じて就学前の事業所での情報を	高学年中心のため対象児童があまりいない。必要な場合には連携をとっていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		卒業を予定しており、別の事業所へ移行する場合、情報提供を積極的に行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じてクローバー、ハーモニーに相談し助言を受けている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		公園での地域児童との交流がある。学童の交流はないものの、公園にて他児童と遊ぶ・関わる機会をもっている。公園での遊びの中で	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		管理者、児発管が積極的に参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時の申し送りやLINEにて情報共有を行っている。	家族支援としてまとまった時間を取り相談援助を行う場合もある
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	昨年度末に作業療法士を講師とした勉強会と茶話会を行った。個別の対応によって必要がある場合には保護者へのアドバイスを行って	保護者参加可能な研修は実施していないが実施する際にはお知らせを行う
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		新規契約時に納得されるまで時間をかけて説明を行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画書の面談をはじめ保護者や本人の意向確認を行っている	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		同意の署名をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		頂いた相談に応じている。相談員や専門機関のご案内をすることもある。も聞けるように仲立ちをしている。	家族支援としてまとまった時間を取り相談援助を行う場合もある

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		保護者会・作品展等保護者が交流する場を設けている。保護者会は設立していない。	時間や場所の検討が必要 継続的に行う必要がある 要望を聞きながら求められている交流ができる機会を開催していきたい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情等頂いたときは迅速に誠意を持って対応することを旨としている。 速やかに対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月のひかりだよりの配布、LINEを活用した連絡、Instagramでの周知活動を行っている	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		パソコン、携帯電話のロック機能、Instagramの画像は個人が特定されない配慮を行っている。ファイルのキャビネット施	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児童からの発信を逃さないようにしている。スタッフからの交流の方法も視覚支援（絵・動画）わかり易い言葉・表現・行動を	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		今後夏休みにお祭りなどの形で地域の方が来れるような企画を考えていきたい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		月に1回、各種の避難訓練を実施している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、自然災害・感染症の職員教育、実践研修を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		保護者から情報提供いただきスタッフ間で共有している。発作時の対応を繰り返し共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者から情報提供いただきスタッフ間で共有している。おやつはアレルギー対応の品、調理は事前にアレルギーチェックを保護者様	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		外出時の安全計画（リスク・マネジメント）に付いては安全計画書に記載し、職員間で情報共有、対策、訓練を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		安全確保を最優先した計画をたてている。外出場所など保護者へのお知らせを前もって行い承知をいただいている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		実施している。月末にてのヒヤリの考察ミーを実施している。小さな事例も共有し大きな事故トラブルを防ぐ努力をしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修を講義・実践とも行っている。適切な対応だったか懸念があるか検討している。支援方法について話し合う機会が増えている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		研修を講義・実践とも行っている。	必要があった際には保護者に十分な説明を行い計画書に記載を行う。